4/21 SUN

金糸銀糸のきらびやかな衣装をまとった谷和神楽団の演目「大江山」の激しい舞いは観客をくぎ付け。

春の光に音も眩しく

マロンの里

好天に恵まれた2日間、栗谷町のマロンの里で恒例の春まつりが催されました。

広場周辺には、地元栗谷産のお米など、さまざまな出店者のテントが連なります。

大竹高校家庭クラブの生徒が考案したキクイモを使ったクッキーやドーナツは、早々に売り切れるほどの人気。

特設ステージでは、小方中学校吹奏楽部の演奏が、春風に乗って会場に流れます。色鮮やかな衣装のフラダンスや県民踊、ストリートダンスに拍手が湧きます。

ステージ脇の遅咲きの桜も、春まつりを楽しんでいるようでした。

大竹高校２年の横田こころさんは「シャキシャキ感のあるハルマキがおすすめです」。新たなメニューの開発にも意欲を見せます。

青い法被で楽しい踊りを見せてくれる県民踊の皆さん。周囲の緑と響き合います。

4/20 SAT

小方中吹奏楽部は「小さな世界」や「カーネーション」などを演奏。アンコールに応え、ステージから芝生に下りてのパフォーマンスに若さがあふれます。

5/8 WED

1みおちゃん（3歳）より、お父さんのほうが夢中？頑張って植えた苗。秋の刈り入れが楽しみです。2泥んこも楽しい田植え。

泥んこの親子で田植え

松ケ原こども館

水の張られた田んぼに、5月の空が映ります。松ケ原こども館近くで、7組18人の親子が参加して「田植え体験」が行われました。

東田自治会長から稲作の説明を受けた後、小分けにした苗を手に田に入ります。最初は泥に足を取られてふらつくお母さんたちも、次第にコツをつかんだようです。

もうすぐ2歳になる、ひぐちりりちゃん（油見2）もお母さんと一緒に一生懸命に植えていました。

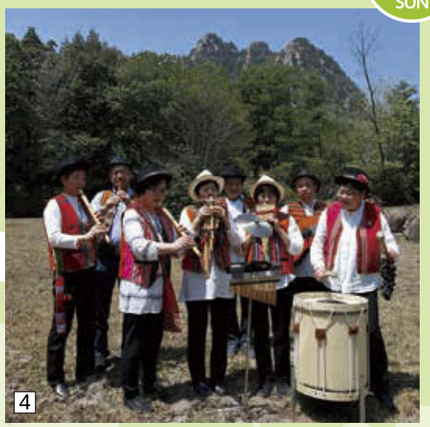
後藤将二さん（廿日市市）は、2歳の娘、まなかちゃんと植え、「すぐにできるようになりました。いい経験をしました」と頬を緩めます。

4月21日　防鹿の「おおたけ手すき和紙の里」が、リニューアルオープンしました。これまでの作業棟に加えて、隣接する建物を体験学習棟として改装。手すき和紙のはがき作りやワークショップができるようになりました。和紙の手描きこいのぼりが青空を元気に泳ぐ中、開所式が催されました。テープカットの後、小方小学校紙太鼓クラブの演奏が式に花を添えました。

5月13日　小瀬川にそよぐ心地よい風に乗って、こいのぼりが泳いでいます。この季節恒例の大和橋の光景で、こいのぼりは、大竹保育所、本町保育所、ひまわりさかえこども園の子どもたちの手作りです。色とりどりのビニールに、思い思いに描いた顔は個性的。大きな口をいっぱいに開けて泳ぐ姿は、子どもたちの姿と重なるようで、行き交う人や車をなごませてくれます。

1山を下りて一息ついた新田さんたち。ヤマツツジと三倉岳を背に。2フォルクローレの音色は、日本人の感性にもよく合うようです。3ペルー総領事夫妻も民芸品の出店者と談笑。

4/21 SUN



倉敷市から出演の「ロス・アンデス」の皆さんは、ご近所同士で結成したグループ。「自然の中でアンデス音楽が聴ける素晴らしさ」を伝えたい。

アンデスのこだまのように

三倉岳休憩所

鋭く立つ３つの峰の三倉岳。まるで南米ペルーのマチュピチュのようだと銘打った「アンデス音楽祭マチュピチュ・エン・ハポン」が、晩春の青空のもとで開催されました。

休憩所前のステージには、県内をはじめ中四国、関西、九州などの南米音楽フォルクローレのグループが演奏を披露。アンデスのこだまのように、山頂まで響きわたります。

今年は日本人のペルーへの移住が始まって120周年の節目の年です。ペルー総領事も訪れ、観客と一緒にふるさとの音楽に耳を傾けていました。山開きとあって多くの登山客も山頂を目指します。山から下りてきた広島市佐伯区の新田誠一さんらは「初めて登りました。あそこに上って来たのかぁ」と、頂を見上げ感慨深げな様子でした。

のついているものは、これ以外の写真も大竹市公式フェイスブックで見ることができます。